

こどもワークショップの実施結果について (速報版)



R6.9.20
第2回和泉市こどもまんなか会議

1. こどもワークショップ実施状況一覧

No.	区分	対象	実施日	対象者	実施方法	テーマ
1	1-① 幼児	年長児(5歳) 各園30名程度	7月11日(木)	国府第一保育園	各保育園で、日頃から関わっている保育士が聞き役となって実施する。	楽しい体験
			7月23日(火)	北松尾保育園		
			8月8日(木)	芦部保育園		
2	1-② 小学生	4~6年生 20名	7月24日(水)	国府小学校仲よしクラブ	6~8人のグループで座談会形式で意見交換する。 ファシリテーターは市職員。	こどもの居場所
			7月25日(木)	横山小学校仲よしクラブ		
			8月6日(火)	どろんこ子ども会		
3	1-③ 中学生	中学生(生徒会)	8月26日(月)	生徒会サミット	各学校の特徴ある取組みを共有し、自分たちの学校の取組みに活かせることを考える	各学校の特徴ある取組み(学校教育)
			12月24日(火)	生徒会交流会	各学校で、和泉市に伝えたいことを生徒に募集し、生徒会で集約整理したものを共有する	和泉市に伝えたいこと (こどもの意見尊重)
4	1-④ 高校生	配慮が必要なこども 10名程度	11月~12月	和泉支援学校高等部	座談会形式で意見交換する。 ファシリテーターは市職員。	余暇の過ごし方
5	1-⑤ 大学生	大学生 20名程度	11月28日(木) 12月5日(木)	桃山学院大学社会学部 ソーシャルデザイン学科	5人程度のグループに分け、こども計画の重点項目を中心に選定したテーマについて、各グループごとに座談会形式で意見交換する。	こども計画(素案)への意見
6	2-① 支援者 (就学前)	庁内、関係機関	7月9日(火)	児童発達支援ネットワーク会議	配慮が必要なこどもの課題整理、支援のあり方について意見交換する。 (児童発達支援センター、エンゼルハウス、和泉保健所、保育園、子育て支援センター、保健センター、ふたば幼児教室、こども未来室、子育て支援室)	配慮が必要なこどもへの支援
			9月11日(水)			
7	2-② 支援者 (就学後)	庁内、関係機関	6月26日(金)	医療・教育・福祉連携会議	配慮が必要なこどもの課題整理、支援のあり方について意見交換する。 (母子医療センター、CSW(コミュニティ・ソーシャル・ワーカー)、小中学校、学校教育室、SSW(スクール・ソーシャル・ワーカー)、子育て支援室)	配慮が必要なこどもへの支援

2. こどもの意見まとめ (①多様な遊び・体験について)

重点項目2 すべてのこどもが可能性を発揮できる環境整備(2-3多様な遊び・体験)、重点項目5 ライフステージにおける支援(5-1出産前～幼児期)に反映する。

「こどもの育ち」の保障・質向上のために、多様な遊びや体験が必要であることから、こども自身の思いを聴き、豊かな保育・養育の取組みに活かす。

こどもたちの意見

【保育園での体験・遊び】

- ・保育園のプールで潜って遊んだこと。一回潜った時冷たかった。友達と水が出てくるところを手でふさぐ遊びが楽しかった
- ・保育園のプール、目あいたまま顔つけできる
- ・プールでフープしたり、先生がバケツで水をかけてくれた
- ・クラスでカブトムシを飼ってる。先生にもらった。オスとメスがいてるけど、メスは潜ってて出てこない

【新しい体験、挑戦】

- ・竹馬に乗った、進めないけど立っている事はできた
- ・ママと妹と一緒に病院に行った、かっこいい椅子に一人で座った。お家に帰ってから、ラーメンとたこ焼きを食べた
- ・花火を見に行ったら。虹みたいできれいやった。お花みたいな形やったけど、ピンクの小さいハートの形もあった。〇〇ちゃん(保育園の同級生)と一緒に見てる。一緒に行っていないけど一緒に見たかったから。

【家族との関わり】

- ・お家に帰ってからママが鬼で、かくれんぼした。布団の中に隠れたから見つからなかった。一緒に遊んでいた子はキッチンに隠れて見つかった
- ・お父さんとお母さんと虫取りにいった、お父さんが黒い蝶々を追いかけてたらカブト虫を発見してお父さんに肩車してもらった
- ・お兄ちゃんと水鉄砲して当てられるの楽しい、氷入れたら冷たくなかった
- ・ゲームをしている、お父さんが見て、すごいなって言われたらうれしい
- ・寝るときにママの足をトントンとマッサージしてあげる
- ・妹が生まれたので、おむつを替えてあげる

計画への意見反映ポイント

- ① 保育園での多様な体験は、こどもにとって楽しみであり、**豊かな情緒・発達を育み**、成長につながる。
現代の地域社会では、同年代の多くのこどもとの関係をとおしての学びは**集団生活**の中で得ることが期待される。
自分に**寄り添ってくれる保育士への信頼**が、愛着形成へとつながる。
- ② 日常とは違う特別な**体験や、挑戦**により新たに行動できたことが、**自己効力感**を育む。
それらの体験から得られた喜び・達成感(及び悲しみや残念感)などの感情の共有が**望ましいコミュニケーション能力の土台**を築く。
- ③ 家族の中で大切にされていること、**愛されているという実感**が、**自己肯定感**を育む。
日常生活の一コマであっても、こどもが実感する**安心・安定**の感情が挑戦をうながすとともに、他者からの喜びを受けとめることで**自己有用感が生まれ**、健やかな成長をすすめる。

2. こどもの意見まとめ (②こどもの居場所について)

重点項目3 地域みんなのこども(3-1こどもの居場所づくり)、重点項目5 ライフステージにおける支援(5-2学童～思春期)に反映する。

こども自身が、どのような場を居場所と感じているか、その場所に何を求めているかなど、こどもたちの視点に立った居場所づくりの方向性を取りまとめる。

こどもたちの意見

【過ごし方、楽しいこと】

- ・公園で友だちが自転車乗られへんから練習したり、6時間授業の時に友だちと集まって遊ぶ
- ・公園で5人くらい集まって鬼ごっこする
- ・広い公園で鬼ごっこ、サッカーのパス、野球のキャッチボールをしたい
- ・広い公園は遊具があるからいい
- ・雨が降ったら屋内の遊び場がほしい
- ・堺に住んでた時は緑地へ行ったが今は1人で行く範囲が限られている
- ・友だちの家でテレビゲームをする

【人との関係】

- ・自分達のしていることがもっとうまくなるよう教えてほしい
- ・野球がうまい人が近くにいたらいいな、その人から野球を教えて欲しい
- ・どこでもいいから勉強を教えてほしい
- ・おばあちゃんの家は居心地がいい、一緒に料理する
- ・友だちの家、仲よしクラブで遊んだりするのが楽しい
- ・ヤンキー、女子高生、カップルがいる所はイヤ

【地域との関係】

- ・盆踊りの場所わからなかったから、みどり(駄菓子屋)で待ってたら友だちが来て教えてくれた
- ・団地に住んでる2階のおばちゃんが話しかけてきて、なんかもったりする、ママも仲よし
- ・家らへんのとこに高校生がおって、一回こけて筋曲がった時に家まで帰らせてくれた、親切にしてもらった
- ・暗めの道、人が住んでいない家とかあると行きにくい、町が暗く見える

計画への意見反映ポイント

① こどもたちが普段の生活の中で楽しいことは様々であるが、**公園や雨天等での屋内での遊び場**も、楽しく過ごせる場所として必要とされている。

そのような場所をこどもたちが活用するためには、その場所が**地域に根付いている**ことが必要である。

② 人との関係においては、こどもたちは、おとなに対して、**自分が関心があること**(野球、勉強、料理など)を**教えてくれる人**という印象をもっている。

その人から、**自分たちを受け入れてくれる**安心感が得られることが必要である。

③ こどもたちが生活している地域が、日頃から住民のつながりがあり、**おとなとこどもが顔の見える関係を築いている**ことが、こどもの安心感を育てている。

3. こどもへの支援者の意見まとめ（配慮が必要なこどもへの支援）

重点項目4 配慮が必要なこども若者への支援(4-1障がい児・医療的ケア児、4-2こども虐待、4-3ヤングケアラー支援、4-4こどもの貧困、4-5不登校)に反映する。

こどもへの支援者が、こどもの状況をどのようにとらえているか、どのような課題を感じているかなどから、配慮が必要なこどもへの支援の方向性を取りまとめる。

こどもへの支援者の意見

【こどもの生活・成長】

- ・登園時間が遅い、朝食の不摂取など生活習慣の乱れがある
- ・自らSOSを出せない
- ・経験不足や家族以外の人との関係が限定的であり、多様な価値観に出会いにくい
- ・困難を抱えるこども自身の意見を聴ける場が必要である

【家庭・保護者】

- ・同年代の親同士の交流が少ない
- ・低年齢からの通園による早期の母子分離により、保護者の交流を経ずに支援者との1:1の関りになっている
- ・養育の不適切な親は、周囲との関係性が希薄で構築が難しい
- ・障がい児の兄弟姉妹が我慢をしていることが多い
- ・貧困家庭には情報が十分に届いていない
- ・保護者が病気や精神障がいなどの課題を抱えている

【地域社会との関係】

- ・地域との交流が少なく、養育困難な家庭は孤立しやすい

【支援サービス】

- ・義務教育終了後の所属のないこどもへの支援が届きにくい
- ・障がい児の発達支援・自立を視野に入れた適切な介助・配慮がされていないことがある
- ・養育困難やヤングケアラーが活用できる資源が少ない
- ・保護者の学ぶ場・つながる場がない。

計画への意見反映ポイント

- ① こどもが、**家族や支援者以外のおとなやこどもとの出会いや多様な経験を積む機会**を確保することが、健やかな成長・発達をうながすためには必要である。
- ② 保護者自身が障がい等の課題を抱えていることもあり、こどもと保護者に寄り添いながら、**家庭全体を支援する**視点が必要である。
- ③ 低年齢からの通園による集団保育・療育はこども発達支援には有効である。一方、早期の母子分離は、人との関係性を築きにくい保護者にとっては孤立を進める一因ともなるため、**地域・親同士の交流や親が学ぶ機会**をつくる視点が必要である。
- ④ 多様な困難に対応できる支援サービスの充実により、**こどもの成長・発達および自立に向けた支援が切れ目なく**提供されることが必要である。
- ⑤ **困難を抱えるこども自身**が何を望み、どう考えているのか、十分な配慮のもと**意見を聴く機会**が必要である。